

報道関係 各位

2017年6月29日

株式会社日本レースプロモーション

7月8日(土)～9日(日)
2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 富士スピードウェイ
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、7月8日(土)～9日(日)の2日間、静岡県駿東郡小山町 富士スピードウェイレーシングコース(1周:4.563km)において、「全日本スーパーフォーミュラ選手権」第3戦を開催いたします。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース55周(250.965km)にて争われます。

第3戦が行なわれる富士スピードウェイは、国内最長を誇るストレートでのバトルが見所です。最高速を伸ばすためにはダウンフォースと空気抵抗を削る必要がありますが、コース後半のセクションではコーナーが連続するためダウンフォースを求められるという、相反するバランスを高い次元で両立させるマシンを仕上げるのが優勝のカギとなります。

開幕戦の鈴鹿大会と、2レース制で行なわれた岡山大会を終えて、アンドレ・ロッター(バンテリン チーム トムス)、中嶋 一貴(バンテリン チーム トムス)、関口 雄飛(イトウチュウエネクス チーム インパル)の3人が勝利。また、山本 尚貴(チーム・ムゲン)、石浦 宏明(ピーエムユーセルモインギング)も全レースで着実にポイントを獲得し、ドライバーランキングのトップ5を形成しています。さらに、岡山で表彰台を獲得したニック・キャンディ(コンドー レーシング)を初め、全ルーキードライバーが既にポイントを獲得しており、後半戦に向けて彼らの実力が開花し始めています。

上位陣の実力者達が引き続きシリーズを牽引していくのか? または、ルーキーがどこまで上位に入り込んでくるのか? など、シリーズ中盤の展開に向け注目される大会となります。



ランキングトップの No.36 アンドレ・ロッター(バンテリン チーム トムス)

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ

SONY
Action Cam

NIKKI-ICHI
人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

公式予選

ノックアウト方式

- Q1 (20分間) 上位14台がQ2に進出。15～19位の順位が確定。
- Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。9～14位の順位が確定。
- Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定。

- ・セッションの間のインターバルは各10分
- ・ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

決勝レース

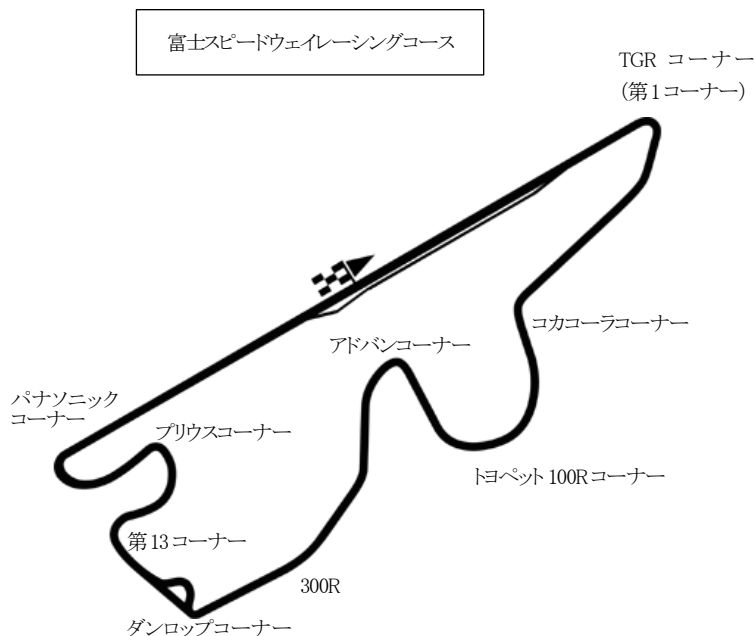
55周 (1周:4.563km×55周=250.965km)

富士スピードウェイレーシングコースについて

富士スピードウェイは、51年の歴史を誇る歴史あるサーキットです。

世界的に見てもとても長い、全長1.475kmのストレートが特徴の一つで、レース中のスリップストリームを使ったエキサイティングな追い越しを見ることができます。TGRコーナー(第1コーナー)は、メインストレートでスピードが乗った状態からのフルブレーキングによる進入が勝負所になり見どころの一つです。

また、アドバンコーナーから複合コーナーの300Rまでは、セッティング次第でダンロップコーナー手前の速度に大きな影響を及ぼします。シケイン形状のダンロップコーナーから、第13コーナー、プリウスコーナーの区間は、他のハイスピードエリアとは大きく異なり微妙なアクセルコントロールが必要です。最終コーナーのパナソニックコーナーの脱出速度が、メインストレートの最高速に大きく影響するため、丁寧で最短のラインレースが要求されます。



Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ

SONY Action Cam

ASAHI BEER 朝日 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権第3戦 エントリーリスト

(車両:SF14、タイヤ:ヨコハマ)

2017年3月4日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県	P.MU/CERUMO・INGING (ピーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA R14A
2	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都			
3	ニック・キャンディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA R14A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
7	フェリックス・ローゼンクヴィスト Felix Rosenqvist	1991/11/ 7	スウェーデン	SUNOCO TEAM LEMANS (スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA R14A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
10	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
15	ピエール・ガスリー Pierre Gasly	1996/ 2/ 7	フランス	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	KCMG (ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA R14A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	星野 一義	TOYOTA R14A
20	ヤン・マーデンボロー Jann Mardenborough	1991/ 9/ 9	イギリス			
36	アンドレ・ロッテラー Andre Lotterer	1981/11/19	ドイツ	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA R14A
37	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県			
40	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
41	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			
50	小暮 卓史 Takashi Kogure	1980/ 8/ 1	日本/群馬県	B-Max Racing team (ビーマックスレーシング チーム)	組田 龍司	HONDA HR-417E
64	中嶋 大祐 Daisuke Nakajima	1989/ 1/29	日本/愛知県	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ
SONY Action Cam
SONY
3A NIKKI-ICHI
人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	ポイント	2017/4/22-23	2017/5/27-28		2017/7/8-9	2017/8/19-20	2017/9/9-10	2017/9/23-24	2017/10/21-22	
				SUZUKA Rd.1	OKAYAMA Rd.2-1 Rd.2-2		FUJI Rd.3	MOTEGI Rd.4	AUTOPOLIS Rd.5	SUGO Rd.6	SUZUKA Rd.7-1 Rd.7-2	
1	36	アンドレ・ロッターレ Andre Lotterer	12	4	5	3	-	-	-	-	-	-
2	37	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	11	11	-	-	-	-	-	-	-	-
3	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	10.5	8	2	0.5	-	-	-	-	-	-
4	2	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	10.5	5	0.5	<u>5</u>	-	-	-	-	-	-
5	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	10	-	<u>5</u>	5	-	-	-	-	-	-
6	1	国本 雄資 Yuji Kunimoto	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-
7	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	4.5	-	2.5	2	-	-	-	-	-	-
8	3	ニック・キャンディ Nick Cassidy	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-
9	10	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
10	7	フェリックス・ローゼンクヴィスト Felix Rosenqvist	2.5	-	-	2.5	-	-	-	-	-	-
11	4	山下 健太 Kenta Yamashita	2.5	-	1	1.5	-	-	-	-	-	-
12	64	中嶋 大祐 Daisuke Nakajima	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
13	20	ヤン・マーデンボロー Jann Mardenborough	1.5	-	1.5	-	-	-	-	-	-	-
14	15	ピエール・ガスリー Pierre Gasly	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
15	41	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	40	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	65	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	50	小暮 卓史 Takashi Kogure	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

* 表中ポイント数字の **太字**: 優勝 下線: 予選ポールポジション

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	ポイント	2017/4/22-23	2017/5/27-28		2017/7/8-9	2017/8/19-20	2017/9/9-10	2017/9/23-24	2017/10/21-22	
				SUZUKA Rd.1	OKAYAMA Rd.2-1 Rd.2-2		FUJI Rd.3	MOTEGI Rd.4	AUTOPOLIS Rd.5	SUGO Rd.6	SUZUKA Rd.7-1 Rd.7-2	
1	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	22	14	5	3	-	-	-	-	-	-
2	1 2	P.M.U./CERUMO・INGING (ピーエムユーセルモインギング)	15.5	11	0.5	4	-	-	-	-	-	-
3	15 16	TEAM MUGEN (チーム ムゲン)	11.5	8	2	1.5	-	-	-	-	-	-
4	19 20	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	10.5	-	5.5	5	-	-	-	-	-	-
5	3 4	KONDO RACING (コンドー レーシング)	5.5	-	4	1.5	-	-	-	-	-	-
6	18	KCMG (ケーシーエムジー)	4.5	-	2.5	2	-	-	-	-	-	-
7	10	REAL RACING (リアル レーシング)	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
8	7 8	SUNOCO TEAM LEMANS (スノコ チーム ルマン)	2.5	-	-	2.5	-	-	-	-	-	-
9	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
10	40 41	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	50	B-Max Racing team (ビーマックスレーシング チーム)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

* 表中ポイント数字の **太字**: 優勝

* チームポイント: 各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ

SONY
Action Cam

NIKKI-ICHI
人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ

J SPORTS

—開催概要—

- 大会名称 : 2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 富士スピードウェイ
- 開催日程 : 2017年7月8日(土) 公式予選
2017年7月9日(日)決勝レース
- オーガナイザー : 富士スピードウェイ株式会社
FISCOクラブ (FISCO-C)
- 公 認 : 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認 定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
日本フォーミュラスリー協会(JF3A)
Honda ワンメイクレース事務局(HORS)
- 後 援 : 静岡県小山町/御殿場市/裾野市/公益社団法人静岡県観光協会/小山町観光協会/
御殿場市観光協会/裾野市観光協会/K-mix/東京中日スポーツ/中日スポーツ/中日新聞社
- 同日開催 : 2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦
2017年 全日本F3選手権シリーズ 第12戦/第13戦
2017 N-ONE OWNER'S CUP Rd.9
Ferrari Challenge Trofeo Pirelli Asia Pacific 2017 Rd.4 (Race7&8)

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ

SONY
Action Cam

ASAHI BEER
Asahi 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

【TV放映予定】

■ BSフジ 決勝戦生中継『2017スーパーフォーミュラ第3戦富士』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。オフィシャルコメンテーター・ピエール北川と、アンバサダー本山哲の場内実況がサーキットの臨場感をリアルに伝え、ピットからはレース解説に定評のある松田次生と、今シーズンから初参戦の東(ひがし)美樹が、現場の緊張感をレポートします。

放送時間: 2017年 7月9日(日) 14:00～15:55

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

番組では、注目のレース関係者や豪華ゲストを招き「人」をテーマにトークを展開、スーパーフォーミュラの魅力に迫ります。MCは小林可夢偉と中嶋大祐の現役ドライバー2人。その2人をピエール北川がサポートし、さらに乃木坂46の樋口日奈がナレーターとして華を添えます。加えて、レースダイジェストコーナーでは、ピットリポーター松田次生がトップドライバーならではの徹底解説をお届けし、東美樹が現地でアシストをします。

《放送時間》

第4回: 2017年 8月5日(土) 23:00～23:55 ゲスト:本山哲、脇阪寿一
8月13日(日) 25:00～25:55(再放送) ゲスト:本山哲、脇阪寿一

■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

第3戦富士スピードウェイ

予選 2017年 7月8日(土) 14:30～16:20 J SPORTS 4 <生中継>
決勝 2017年 7月9日(日) 13:30～16:00 J SPORTS 4 <生中継>
ダイジェスト 2017年 7月13日(木) 00:30～00:45 J SPORTS 3 <初回>

【映像の配信】

■ GYAO!

大会終了15日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」(<http://www.superformula.net/>)でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【インターネット／SNS】

- スーパーフォーミュラオフィシャルWEBサイト

<http://superformula.net>

- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

- スーパーフォーミュラオフィシャル twitter

https://twitter.com/SUPER_FORMULA

【チケット情報】

- 前売観戦券(2日間有効)

大人1名:5,700円

ペア券(大人2名):10,300円

※中学生以下は保護者同伴に限り入場無料

- 前売りパドックパス

大人1名:16,000円(観戦料込み)

子供1名(小中学生):5,700円

※子供用パドックパスの前売はございません。レース当日にお買い求めください。

- 前売りピットウォーク券

予選日 大人1名:1,600円

決勝日 大人1名:2,100円

※中学生以下は保護者同伴に限り入場無料

レースチケットのご案内(<http://okayama-international-circuit.jp/special/sf-2017/ticket.html>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社日本レースプロモーション(<http://www.superformula.net/>)

102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25 平安堂ビル

e-mail:media@superformula.net

Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外の19名(19台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:13名、海外:6カ国(ニュージーランド、スウェーデン、フランス、イギリス、ドイツ、インド)6名

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 22 ~ 23	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	200 km
5 / 27 ~ 28	第2戦/岡山国際サーキット	計時予選/ノックアウト	2 レース制
7 / 8 ~ 9	第3戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 19 ~ 20	第4戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 9 ~ 10	第5戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
9 / 23 ~ 24	第6戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
10 / 21 ~ 22	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	2 レース制

2017年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1
1大会2レース	5	4	3	2.5	3	1.5	1	0.5	0	1

*P.P.:ポールポジション(予選1位)には、ドライバーにのみ1ポイントが与えられます。チームポイントには加算されません。

*1大会2レース制の場合、レース1、レース2共に1レース制の得点の半分が与えられます。

*1大会2レース制の場合、最終戦に限りレース1、レース2の勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

これによりポールポジション+2連勝で最大18ポイントが与えられます。

*最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチーム(エントリー)が同一ポイントを獲得している場合は、高得点を得た回数が多い順に順位を決定します。

3. シリーズ賞典

シリーズ賞典として、年間チャンピオンドライバーには、株式会社日本レースプロモーションよりシリーズドライバーズチャンピオンカップと賞金が授与されるほか、自由民主党モータースポーツ振興議員連盟より同連盟杯が贈られ、観光庁より観光庁長官杯が交付されます。また年間チャンピオンチームには経済産業省より経済産業大臣杯が交付され、株式会社日本レースプロモーションより賞金が授与されます。

4. レース車両

◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からの注目を集めるようになりました。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA RI4A を搭載しています。

このエンジンの特徴としては「燃料リストリクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けて決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……………燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。

このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みです。

当該システムは、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。

SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストリクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※3)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。

またポイントリーダードライバーは、その榮譽を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

(※3)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。